

図画工作科学習指導案

令和元年〇〇月〇〇日（〇曜日）

第1校時 5年〇組教室

5年〇組 指導者 〇〇 〇〇

授業仮説（本時1／題材6時間中）

作品を鑑賞した後に、作品のよさや鑑賞の視点を共有し、再度鑑賞を行なうことによって、作品のよさや美しさをより深く味わうことができるであろう。

I 題材

1 題材名 使って楽しい焼き物

2 題材の目標

粘土を使って、ひもづくりや板づくりの技法を生かして、実際に使えるものを工夫してつくる。

3 題材の評価規準

〔造形への関心・意欲・態度〕

粘土を用いて、自分の生活を楽しくするものをつくることに取り組もうとしている。

〔発想や構想の能力〕

ひもづくりや板づくりを生かして実際に楽しく使える焼き物の形や飾りを考えている。

〔創造的な技能〕

目的や使い方に合わせてひもづくりや板づくりなどの粘土の特徴を生かしたつくり方を工夫している。

〔鑑賞の能力〕

完成した焼き物の形や焼き物の立体の感じや質感を確かめながら、味わっている。

II 考察

1 児童の実態（男子〇〇名、女子〇〇名、計〇〇名）

〔造形への関心・意欲・態度〕

—略—

〔発想や構想の能力〕

—略—

〔創造的な技能〕

—略—

〔鑑賞の能力〕

—略—

2 題材について

本題材は、「使って楽しい焼き物」というテーマから発想を広げ、粘土を用いて、実際に日常生活で使えるものを一人一人の思いに合わせてつくっていくものである。板づくりやひもづくりによ

る焼き物の伝統的な技法について紹介し、これらの技法を生かした製作活動を行なう。完成した作品をどのように使いたいかという用途を意識することで、つくり方も変わってくる。児童は、これまでの学習で粘土を切ったり掻き出したりして形作った経験をしてきている。今までに学んだ粘土の技法に新たに知る技法を加え、工夫の幅や表したいもののイメージを今まで以上に広げることのできる題材であると考えられる。

この題材は、小学校学習指導要領図工の第5学年及び第6学年の内容A表現(1)イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見つけることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途を考えながら、どのように主題を表すかについて考えること」に対応したものである。鑑賞においては、第5学年及び第6学年の内容B鑑賞(1)ア「親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。」に対応している。

小学校学習指導要領図工の内容の取扱いと指導上の配慮事項(7)「版に表す経験や土を焼成して表す経験」に、焼成する造形活動についての表記があるが、本校にはそのような設備はない。そのため、焼成は行わないが、材料にはテラコッタの中でも焼成せずとも焼成したような風合いが楽しめるものを選定した。

指導にあたっては、単元の導入に、本校の備品にある縄文土器や弥生土器のレプリカを鑑賞させる。焼き物への関心を高めながらその用途についても考えさせることで、焼き物に対する興味や関心を高めたり、製作のイメージを広げさせたりしたい。児童は低学年のころから、粘土を扱う学習を積み重ねてきているため、可塑性のある材料の扱いには慣れ親しんでいると思われる。そのため、粘土は表したいものを表すのに適した材料の一つと言える。活動の前に表したいことが見つからなくても、材料に触れている際に表したいことが見つかる児童の実態もある。テラコッタを使う前に、油粘土を使って試す時間をしっかり取り、自分のイメージや発想に自信をもてるようにして製作を進めていきたい。

こうした活動を通して、主題やイメージを自分で見出し、どのように表していくかを考える力を身に付けさせたい。

3 校内研修との関わり

—略—

〔焦点化〕

- ・本時で行う鑑賞活動を、用途を意識した焼き物づくりを行うという表現活動にスムーズにつなげられるように、題材名を「使って」を強調して板書したり、「〇〇を入れるのにはどの土器がいいかな。」と発問したりして、鑑賞の視点を焦点化していく。

〔視覚化〕

- ・土器は色や形が類似していて見分けづらい。そのため、児童がどの土器を鑑賞しているのかがわかるように、教室に配置した土器には番号を付けたり、ワークシートにカラーの写真をつけたりする。土器の配置と番号は、実際の配置、ワークシート、板書の三点で同一のものとなるようにする。

〔共有化〕

- ・お気に入りの土器を説明する場面で、どの土器について説明しているのか、その土器のどんなと

ころがよいのかについて全員が共有できるように、話題に挙げられている土器をタブレットPCの無線接続を使ってテレビに映したり、説明している箇所を拡大表示したりする。

Ⅲ 単元構想（別紙）

Ⅳ 指導方針

〔造形への関心・意欲・態度〕

- ・生活の中には、様々な焼き物があることに目を向けられるように、家庭での焼き物調べを行う。
- ・焼き物調べに積極的に取り組めるように、ワークシートを配布する歳に、焼き物の具体例をいくつか紹介する。
- ・造形活動へ意欲的に取り組めるように、実際の生活の中で使えるものを課題としてつくらせる。
- ・製作の楽しさを味わえるように、板作りに必要なたたら板とのし棒の他にも、粘土べらや切り糸、スプーン、フォーク、LEDキャンドルなど、自由に装飾ができる環境を用意しておく。
- ・つくったものが自分の生活に加わることの喜びを実感できるように、作品を自宅で使った感想をワークシートに書かせる。
- ・本題材に取り組んだ充実感が味わえるように、家庭学習で取り組んだワークシートには、一人一人コメントを入れる。

〔発想や構想の能力〕

- ・作りたいもののイメージを膨らませるため、題材のはじめに土器の鑑賞活動を取り入れ、細部にも注意を払った表現方法に出会わせる。
- ・鑑賞の際に出された土器のよさや美しさは、教室に掲示し、自分の作品づくりにいつでも取り入れられるようにする。
- ・焼き物の用途を意識して構想を練ることができるように、作りたいものの用途や使い方、簡単なアイデアスケッチを言葉や文章、図で記入できるワークシートを準備する。
- ・材料を試す中でイメージが膨らむこともあるので、粘土を使って板づくりやひもづくりを試す時間を十分に確保する。
- ・板づくりやひもづくりを試す際には、乾燥する恐れのない油粘土を使用する。作品を想定してイメージを広げられるように、テラコッタの材質や量を確認させる。
- ・試作の形や作り方を忘れないように、ワークシートに記入させたり、試作をカメラで撮影しておいたりする。

〔創造的な技能〕

- ・板づくりにおいて、板をつくりやすいように、たたら板を粘土の両側に置き、のし棒でのばすやり方でやらせるようにする。
- ・板づくりやひもづくりの技法は、何度も練習できるように、十分な数のたたら板やのし棒を準備する。
- ・板づくりやひもづくりの技法が分かるように、少人数ごとに師範をして見せる。
- ・細かいパーツは、乾燥が早く扱いにくくなったり、崩れやすくなったりすることを製作の前に伝えておく。
- ・テラコッタの水分が余分に蒸発しないように、使わない分はビニール袋に入れておかせる。製作中は、児童の机上に濡れタオルを置かせ、時々手を湿らせるように指導する。過度に水分を補給すると扱いにくくなるので、その旨を伝えておく。

- ・製作が進まない児童には、つくりたいものを聞き取り、どのようなつくり方がよいか適宜助言するようにする。

[鑑賞の能力]

- ・細かい模様や触感、大きさなどの造形要素に目を向けて鑑賞できるように、教科書に掲載されている縄文土器や弥生土器は、写真ではなく本校に置かれているレプリカを用意して鑑賞させる。
- ・鑑賞は、色や形、全体的な印象、模様、使われている道具など視点をもって行わせる。
- ・土器や焼き物のよさを味わえるように、見た目だけでなく手触りなども含めて鑑賞させる。
- ・焼き物の用途に目を向けて鑑賞できるように、花や木の実、LEDキャンドルなどの土器に入れられそうなものを準備し、入れるのに適した土器を選ぶ活動を行う。
- ・鑑賞をした後には、全体発表を行い、鑑賞の視点を共有する。共有し、学び合った新たな視点をもとに再度鑑賞を行わせることで、鑑賞の能力を養う。
- ・題材の振り返りとして、自分たちの作品を鑑賞する活動を行う。その際、作品の感じ方や見方を広げ、作品を深く捉えられるように、出会う課程で取り上げた鑑賞の視点を提示するようにする。
- ・自分たちの作品を実際に使って確かめることも鑑賞であることを伝え、鑑賞の方法の幅を広げる。

V 本時の学習

1 ねらい 土器の鑑賞を通し、そのよさや美しさを見つけることができる。

2 準備

教師…縄文土器と弥生土器のレプリカ、土器に入れるもの（花、木の実、ペン）、タブレット、ワークシート、鑑賞の視点カード

児童…たんけんバッグ

3 展開

過程	学習活動 ・予想される児童の反応	時間	教師の支援及び留意点 ▲：配慮を要する児童への支援
つかむ	1 学習のめあてをつかむ。 〈めあて〉 土器のお気に入りポイントを見つけよう。	5	・児童にとって親しみのある「はにわ」のレプリカを提示し、自然な流れで「土器」を鑑賞するというめあてをつかませる。
追 究 す る	2 土器を自由に鑑賞し、自分が一番好きな作品を選ぶ。	10	・教室の壁際に広く幅をとって土器を並べることで、自由に鑑賞しやすいようにする。 ・土器が割れてけがをしないように、土器は必ず床に置く。 ・感触の違いに気付けるように、土器を触ってもよいことを伝える。 ▲あらかじめ時間を伝え、テレビで見えるようにしておき、集中して学習に取り組ませる。 ▲土器のよさが書けない子には、「よーく見てごらん。」と言い、模様や色などの細かい造形要素に気付けるようにする。
	3 選んだ作品ごとにグループを作り、選んだ理	5	・児童の発言を認めたり褒めたりすることで自信をもたせ、次の全体発表の発言が活発になるよ

	<p>由を伝え合う。</p> <p>4 全体でそれぞれの作品についての意見を出し合い、鑑賞の視点を確かめる。</p> <p>5 出された鑑賞の視点をもとに、もう一度作品の鑑賞をする。</p>	<p>5</p> <p>10</p>	<p>うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題に上がっている土器をテレビに映したり、教室に置かれているのと同じ土器の配置をワークシートに記入しておいたりして、どの土器について話されているのかが全員に分かるようにする。 ・児童の発言に合わせて、鑑賞の視点を書いたカードを黒板に貼っていき、次の活動の参考にできるようにする。 ・2回目の鑑賞では、鑑賞の視点を明確にして作品を見られるように、◎⊙などとマークをつけ、区別して書くことを説明する。 ・全体発表では、新しく見つかった土器の良さを発言させ、鑑賞の視点を意識できたことを称賛することで、鑑賞能力の変容を実感できるようにする。
<p>評価項目 土器のよさや美しさ、使い方を見つけている。〔ワークシートの記述〕 〈鑑〉</p>			
	<p>6 題材名を知り、それぞれの土器がどんな使い方ができるかを考える。</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土器の使い方という視点に目を向けて表現活動への意欲がもてるように、題材名を板書し、次時以降に粘土を使って生活を楽しむものを作ることを伝える。 ・花や木の実、ペンなどを見せ、それを入れるのに適する土器を選ばせる。また、その理由を答えさせ、入れるものや使い方によって作り方を工夫する必要がある意識をもてるようにする。
<p>まとめ</p>	<p>7 本時の学習をふり振り返り、次時の学習を知る。</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの視点をもとに鑑賞するとその作品のよさや美しさがより感じ取れることがわかるように、めあてに振り返り、土器のよさについて分析的に意見を出させる。 ・生活の中の造形に目を向けられるように、家にある土を焼いてできたものを探す宿題を出す。 ・鑑賞したことと表現の活動が結びつくように、授業後に鑑賞の視点を書いたカードを教室に掲示する。

4 板書計画

〈めあて〉 土器のお気に入りポイントを見つけよう。

土器写真 1

土器写真 2

土器写真 3

土器写真 12

こんなところに目を向けてみよう

土器写真 4

①色 ②形 ③大きさ

④もよう ⑤つくり方 ⑥道具 ⑦材料

土器写真 11

⑧触った感じ ⑨使い方 ⑩考えたこと

土器写真 5

土器写真 10

使って楽しい焼き物

土器写真 6

土器写真 9

土器写真 8

土器写真 7

Ⅲ 題材構想 図画工作 5年・使って楽しい焼き物 11月～12月 全6時間予定

題材の目標					
●粘土を使って、ひもづくりや板づくりの技法を生かして、実際に使えるものを工夫してつくる。					
題材の系統		1年 チョキチョキかざり → 2年 わっかでへんしん → 3年 ハッピー小もの入れ → 4年 ギコギコクリエーター → 5年 使って楽しい焼き物 → 6年 1まいの板から			
本題材に係る児童の実態		〔造形への関心・意欲・態度〕 図工の学習が好きな児童が多い。課題を与えるとすぐに取り掛かり、集中して製作に取り組むことができる。 〔発想や構想の能力〕 おおよそのアイディアは浮かぶが、どのように作品をつくり込んでいってよいか分からず、自分の発想に自信がもてない児童が多い。 〔創造的な技能〕 粘土の扱いには親しんでいる。細部の飾りや模様、色などにこだわって完成させることに課題がある。 〔鑑賞の能力〕 どの児童も作品についての感想をもつことができるが、単一的な視点からの鑑賞になってしまいがちである。			
過程	時間	ねらい	主な学習活動	支援・指導上の留意点 ●指導を要する児童への支援	評価項目〔評価方法〕〈評価の観点〉
出会う	1 (本時)	土器の鑑賞を通し、そのよさや美しさを見つけられる。	○縄文土器や弥生土器のレプリカを鑑賞し、好きな作品を選ぶ。 ○鑑賞の視点を共有する。 ○土器がどのような使い方ができるか考える。	○細かい模様や触感、大きさなどの造形要素に目を向けて鑑賞できるように、教科書に掲載されている縄文土器や弥生土器は、写真ではなく本校に置かれているレプリカを用意する。 ○鑑賞の際に、自由に移動できるように、児童の机やいすは廊下に出して教室での鑑賞スペースを十分に確保する。 ○鑑賞したことで表現の活動が結びつくように、授業後に鑑賞の視点を書いたカードを教室に掲示する。 ●作品のよさがなかなか見つからない児童には、個別指導で鑑賞の視点を与えたり、複数の土器を比べて考えさせたりする。	土器のよさや美しさ、使い方を見つけている。〔ワークシートの記述〕〈鑑〉
	家庭学習	身の回りにある焼き物に関心をもつことができる。	○家庭で使っているものの中には、どのような焼き物があるのか調べる。	○ワークシートを配布し、調べ学習を行なわせる。 ○生活の中の造形に目を向けられるように、焼き物の具体例をいくつか示す。 ●全員が確実に取り組めるように、提出期限にゆとりをもたせたり、早く課題を終わらせた児童のものをクラスで紹介したりする。	身の回りにある焼き物を見つけようとしている。〔ワークシートの記述〕〈関・意・態〉
試す・広げる	2	粘土を用いた作品づくりに関心をもつことができる。	○調べた焼き物を発表する。 ○日本各地の焼き物を知る。 ○板づくりやひもづくりの技法を知り、油粘土で試す。	○焼き物についての理解が深まるように、児童の紹介するもの他にも、教員が写真や実物を用意して提示する。 ○板づくりやひもづくりの技法を何度も試せるように、乾燥して固まるテラコッタは使用せず、油粘土を使わせる。 ○板づくりにおいて、板をつくりやすいように、たたら板を粘土の両側に起き、のし棒でのばすやり方でやらせるようにする。 ●板づくりやひもづくりの技法が分かるように、少人数ごとに師範をして見せる。	粘土を用いて、自分の生活を楽しくするものをつくることに取り組もうとしている。〔観察〕〈関・意・態〉
	3	焼き物の用途を考えながら、表し方を考えることができる。	○板づくりやひもづくりの技法を生かして、目的や使い方に合わせた焼き物の試作を考えてつくる。 ○使って楽しくなるような工夫や飾りを考える。	○目的をもって活動に取り組めるように、焼き物の「用途」や「使い方」、「簡単なアイディアスケッチ」を言葉や文章、図を用いて記入できるようなワークシートを配布する。 ○試しているうちに新たにイメージが浮かぶことがあるので、ワークシートを書き直せるように余分に準備しておく。 ○設備の都合でテラコッタは焼成せず、乾燥させた状態を完成とすることを伝える。 ○2時間目と同様に、油粘土を使用させる。作品を想定した試しとしてイメージが広げられるように、テラコッタの量を示す。また、テラコッタに絵具を混ぜて着色したり、乾燥後に絵具で着色したりできることを伝える。 ○製作の楽しさを味わえるように、板づくりに必要なたたら板とのし棒の他にも、粘土べらや切り糸、スプーン、フォーク、LEDキャンドルなど、自由に装飾のできる環境を用意しておく。 ●製作した試作のアイディアスケッチをワークシートに記入するのが困難な場合は、カメラで撮影し、記録を残しておく。	ひもづくりや板づくりを生かして実際に楽しく使える焼き物の形や飾りを考えている。〔観察、作品〕〈発〉
表す	4 5	板づくりなどの技法を生かして、目的や使い方に合わせた焼き物をつくることができる。	○板づくりやひもづくりの技法を生かして、自分の用途や使用目的に合った焼き物をつくる。 ○使って楽しくなるような工夫や飾りを施してつくる。	○製作中、テラコッタの水分が余分に蒸発しないように、使わない分はビニール袋に入れておかせる。また、児童の机の上に濡れタオルを置かせ、時々手を湿らせるように指導する。過度に水分を補給させるとテラコッタが扱いにくくなるので、活動の前に知らせておく。 ○あまり細かいパーツは、乾燥が早く扱いにくくなったり、崩れやすかったりすることを伝えておく。 ○製作に十分な時間が取れるように、準備や説明はできるだけ手短に行う。 ●児童のつくりたいものを聞き取り、どのようなつくり方がよいか適宜アドバイスするようにする。	目的や使い方に合わせてひもづくりや板づくりなどの粘土の特徴を生かしたつくり方を工夫している。〔作品〕〈技〉
振り返る	6	自分たちの作品のよさや美しさを見つけられる。	○自分たちの作品を鑑賞する。	○お互いにつくった作品を見たり、触れたりしながら、見た目だけではなく手触りなども含めて鑑賞させるようにする。友人の作品に触る際には、丁寧に扱うことを伝える。 ○作品の感じ方や見方を広げ、作品を深く捉えられるように、出会う課程で取り上げた鑑賞の視点を提示する。	自分たちの作品のよさを見つけている。〔ワークシートの記述〕〈鑑〉
	家庭学習	できあがった作品の質感や立体感を味わいながら使うことができる。	○自分の作品を自宅で使い、使った感想をワークシートに書く。	○つくったものが自分の生活に加わることの喜びを実感できるように、作品を自宅で使った感想をワークシートに書かせる。また、感想にはコメントを入れ、本題材に取り組んだ充実感を味わえるようにする。 ○自分たちの作品を実際に使って確かめることも鑑賞であることを伝え、鑑賞の方法の幅を広げる。	自分の作品のよさを自ら感じ取り味わっている。〔ワークシートの記述〕〈鑑〉
題材の評価規準					
〔造形への関心・意欲・態度〕 粘土を用いて、自分の生活を楽しくするものをつくることに取り組もうとしている。 〔発想や構想の能力〕 ひもづくりや板づくりを生かして実際に楽しく使える焼き物の形や飾りを考えている。 〔創造的な技能〕 目的や使い方に合わせてひもづくりや板づくりなどの粘土の特徴を生かしたつくり方を工夫している。 〔鑑賞の能力〕 完成した焼き物の形や質感、焼き物の立体の感じを確かめながら、味わっている。					